

9月8日

おとめ聖マリヤの誕生日

Birth of the Virgin Mary

<人名事典などでの別表記：マリア>

マリヤの誕生については、新約聖書に何も書かれていません。またその両親の名前さえも、聖書には記されていません。しかし、二世紀に書かれたとされる外典『ヤコブの原福音書』によれば、両親の名はヨアキムとアンナであると伝えられています。その伝承に従って、聖公会においても7月26日はおとめ聖マリヤの母アンナの日とされています。

歴史上、マリヤを祝った最初の祝日は、聖母の被昇天でしたが、まもなく、東方教会でマリヤの誕生も祝われるようになりました。その由来は、5世紀のエルサレムでの聖アンナ教会献堂祝日であるといわれます。また、その聖アンナ教会は、マリヤ誕生の家があった場所とされています。

そしてローマカトリックでは、「聖マリヤの誕生」という祝日になったのは、7世紀になってからでした。そして教皇セルギウス1世（在位687-701）は、聖母被昇天の祝日と同様、この日には、行進行列をおこなったそうです。

また、誕生日が祝日となっている聖人はめずらしく、同じく誕生日が祝われる洗礼者ヨハネとこのマリヤは、特別な存在であること



The Birth of the Virgin Mary

by

Esteban Murillo

パリ、ルーヴル美術館

がわかります。それはこの二人は、生まれた時から神の恩寵によって聖なる存在であると考えられていたからです。

ローマカトリック教会では、マリヤの誕生の祝日に、固有の叙唱を唱えます。「あなたはマリヤをすべての人類から選び、女性すべての前で祝福されました。マリヤによって救いの夜明けが始まり、あなたは義の太陽であるキリストを、マリヤはわたしたちのために誕生させました」。

また東方教会では彼女をこのように賛美します。

「神を生みし童貞女や、汝の誕生は 全世界に喜悦を知らしめり。義の日ハリストス 我が神は汝より出でて光り、かつのろいを破りて福を降し、死を虚しうして 我等に永生を賜へばなり」。

この祝日は、長い間準備されていた救いの約束が、その実現に近づいたことを祝うことを意味します。マリヤの誕生は、義の太陽であるキリストの曙であるのです。

<特禱>

主よ、あなたはおとめマリヤによってみ子の受肉を成就し、救いのみ業を始められました。どうかおとめマリヤの誕生を祝うわたしたちの心に、天の恵みを豊かに注ぎ、あなたの平和を増し加えて下さい。み子イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン